

ホンジュラス共和国
ラ・ウニオン生物回廊プロジェクト

2016年1月 – 2021年1月

La Union Biological Corridor Project for Sustainable Use and Conservation of Biodiversity
Proyecto “Corredor Biológico La Unión (CBLU), para el Uso Sostenible
y Conservación de la Biodiversidad

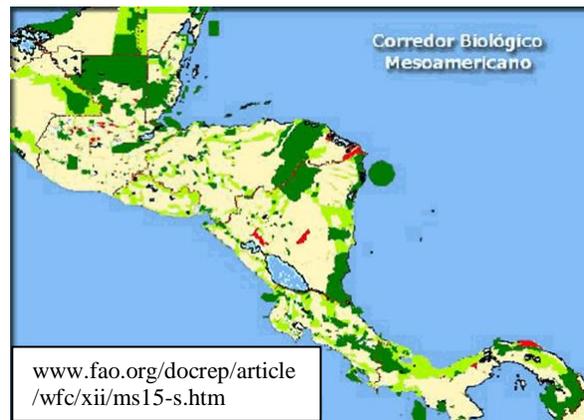


ユスカラン、チャンゲッテ・スール村の小学校



中米生物回廊 Corredor Biológico Mesoamericano

野生生物は、生息地とそれがネットワークとして結び付いた地域個体群集団として生息している。森林や自然植生地の農地への転換や、道路、都市の発達により野生動物生息地は分断されている。生息地の分断は、私たちの生活に必要な水資源など生態系サービスの低下ももたらしている。分断された野生動物生息地を結びつけるため、生物回廊あるいは生態系ネットワーク設定が世界各地で計画されている。中米では、分断された野生動物生息地の結びつきを回復するとともに、人々に環境財と生態系サービスを提供することで地域の持続可能な発展を促すことを目的とした中米生物回廊（MBC/CBM（西語））計画が1997年の中米機構（SICA）首脳会議で承認された。メキシコ南部からパナマまでを対象としたMBC地域は768,900km²、地球陸域の0.5%をしめるだけだが、地球の種の約7%が生息するホットスポットとなっている（World Resource Institute、2001）¹。これまでに、中米の550の保護地域を生物回廊で結ぶ計画が作成されてきた。MBCでは2025年までに地域の森林の半分以上をMBCコンセプト下におくことを計画している。



ホンジュラスの生物回廊 Plan de Corredor Biológico en Honduras

ホンジュラスは中米の中でもその中央部に位置しており、MBC計画ではキーとなる地域である。中米機構のメンバーであるホンジュラスも1997年以降、MBC計画にそった国内の生物回廊設定をすすめてきた。森林・保護地域・野生動物法（2007年）で生物回廊の定義を示し、2012年には保護地域間を結ぶ生物回廊地図を作成した。そして、2013年には「ホンジュラス生物多様性回廊強化戦略」²を公表し、2015年には「ホンジュラス生物回廊規則」³を策定し、2017年には生物回廊規則に基づく「生物回廊国内委員会（CONACOBH）内規」⁴を制定した。



ホンジュラスの生物回廊は、林野庁（ICF）と環境省（MiAmbiente）が共同管理している。

¹ http://pdf.wri.org/mesoamerica_english.pdf

² https://acchonduras.files.wordpress.com/2014/07/estrategia-consolidacion-corredoresbiologicos_icf_2013.pdf

³ https://www.jica.go.jp/project/spanish/honduras/004/materials/c8h0vm0000bk9y9y-att/materials_01.pdf

⁴ http://transparencia.scgg.gob.hn/descargas/Acuerdo_Ejecutivo_No_013_Autorizacion_para_Allanamiento.pdf

ラ・ウニオン生物回廊 Corredor Biológico La Unión

エル・パラíso県のユスカラン市、グイノペ市、オロポリ市、およびフランシスコ・モラソン県のサンアントニオ・デ・オリエント市の4つの市はテグシガルパの南東約80 kmに位置する。人口の多い首都に近いがこの地域には自然環境が保全され、人々の伝統的な生活が維持されている。いずれの市も18世紀には市（municipio）として制定されている。ユスカラン市は国のモニュメントに指定された伝統的町並みを維持している。

この3つの市、ユスカラン市、グイノペ市、オロポリ市、およびサンアントニオ・デ・オリエント市のユスカラン生物圏保護地域部分の合計面積は約720 km²、人口は約28,000人（表1）。地域の主な産業は農業であり、コーヒー、果実、トウモロコシ、豆類の栽培や放牧が行われている。グイノペ市のタマネギ、オロポリ市のメモンは特産品となっている。

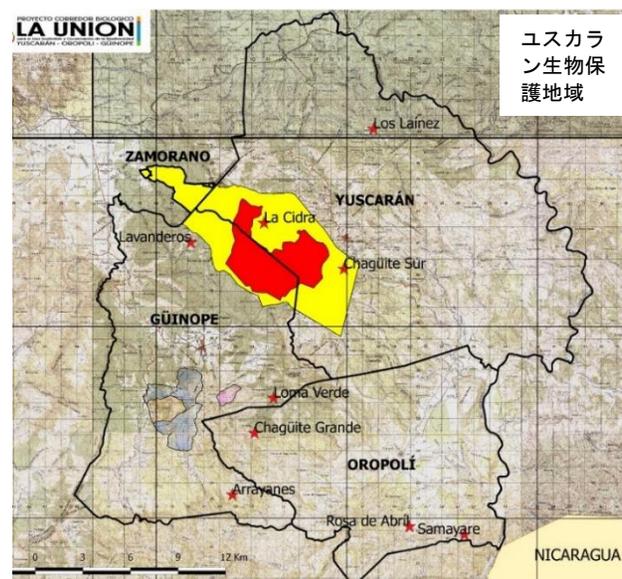
地域の中心部に1987年に指定されたユスカラン生物保護地域（面積6,000 ha）がある。生物圏保護地域のバッファゾーンの一部は、隣接するサンアントニオ・デ・オリエンテ市にまたがっている。生物圏保護地域の標高1,800 m以上は雲霧林指定地でもある。グイノペ市は林野庁の認定をうけた地域水源林が3カ所ある。ラ・ウニオン生物回廊（CBLU）プロジェクトでは、これらの保護地域を含め、3つの市の地域全体とサンアントニオ・デ・オリエント市のユスカラン生物圏保護地域部分をホンジュラス生物回廊規則に基づく最初の生物回廊として登録・管理することを支援している。

表1 CBLU 対象地域

| Department | Municipals | Area (km ²) |
|-------------------|------------------------|-------------------------|
| El Paraíso | Yuscarán | 348.9 |
| El Paraíso | Güinope | 204.0 |
| El Paraíso | Oropolí | 158.9 |
| Francisco Morazán | San Antonio de Oriente | 7.3 |
| | Total | 719.1 |



CBLU 隣接地域と生物回廊計画



ユスカラン生物保護地域



ユスカラン生物保護地域遠望

ラ・ウニオン生物回廊 Corredor Biológico La Unión

CBLU 地域は標高 300 m から 2,000 m の範囲にまたがる。中央部の山地は古い火山であり、オロポリ市には温泉の湧き出るところもある。ホンジュラスのエコリージョン（生物地理地域）は、カリブ海側の中米湿潤林、中央高原部のマツ-カシ林、そして中米太平洋側熱帯乾燥林の 3 つに区分される（世銀、1995）。ラ・ウニオン生物回廊地域は、中央高原部のマツ-カシ林と太平洋側熱帯乾燥林の 2 つのエコリージョンにまたがっている。この 2 つの植生に加え、ユスカラン生物保護地域には、広葉樹の混交林（湿潤林）が残されている。CBLU 地域の森林カバー率は全国平均（48%）より 11% 高い 59%、森林植生の内訳は、疎林を含むマツ林が 60%、乾燥林が 33%、広葉樹混交林を含むその他の森林が残りの 7% をしめている。これらの森林は、野生生物の生息地となっているとともに、水資源など生態系サービスを地域住民に提供している。CBLU 管理計画では、地域内の保護地域を森林回廊で結ぶことが計画されている。



混交林（湿潤林）



マツ-カシ林



乾燥林

野生動物・植物相 Flora y Fauna

CBLU 地域の中心部にあるユスカラン生物保護地域は多くの生物の生息地となっている。特に山地性の鳥類や植物の多様性が高い。

保護地域と周辺地域これまでの調査で確認された生物種数

- 植物：81 科 209 属 310 種（このうち 14 種は IUCN あるいは CITES で希少種指定）
- 小型無脊椎動物（Macroinvertebrados）：節足動物 1497 種、甲虫 21 種
- 魚類：4 種記録（Río Choluteca）
- 爬虫・両生類：13 種
- 鳥類：98 種（ホンジュラス全国鳥類=742 種の 13%）
- 哺乳類：19 種

オジロジカ（*Odocoileus virginianus*）（ホンジュラスの国の動物）、キタアリクイ（*Tamandua mexicana*）、ケッツアール（*Pharomachrus mocinno*）なども生息する。



Foto: Fundación Yuscarán



コミュニティ Vida de Comunidad

CBLU 地域の住民の多くは農村部に居住している。農村部のコミュニティは行政単位である村 (aldea) が 45、その下の集落 (caseríos) は 270 ある。農村部では多様な農業活動を行っている。標高 1,000 m 以上の比較的標高の高いところでは、コーヒー、果樹、野菜栽培などが多い。CBLU 地域の東南部に広がる乾燥林では放牧が中心だが、灌漑用水が確保できる場所ではメロン栽培などもおこなっている。どの地域も自家消費用のトウモロコシを栽培している。コミュニティは伝統的な文化を持っている。ユスカラン市の巨人人形祭りとマンゴー祭り、グイノペ市のオレンジ祭りなどはよく知られている。地域の特産品として、ユスカランは蒸留酒、グイノペはワインと菓子類、オロポリ市はメロンなどが有名である。



自然資源の持続可能な利用 Uso sostenible recursos naturales

CBLU 地域のコミュニティは、自然資源の持続可能な利用のためさまざまな自主的活動を行っている。特に重要な活動が水源の保全と飲料水の供給システムである。コミュニティの大部分は、ユスカラン生物保護地域とそれに隣接する山地森林からわき出す水を水源としている。水源林の一部は林野庁 (ICF) による承認済み水源林 (micro cuenca) となっている。林野庁承認水源林でなくても、コミュニティが自主的に保全している水源林も多い。



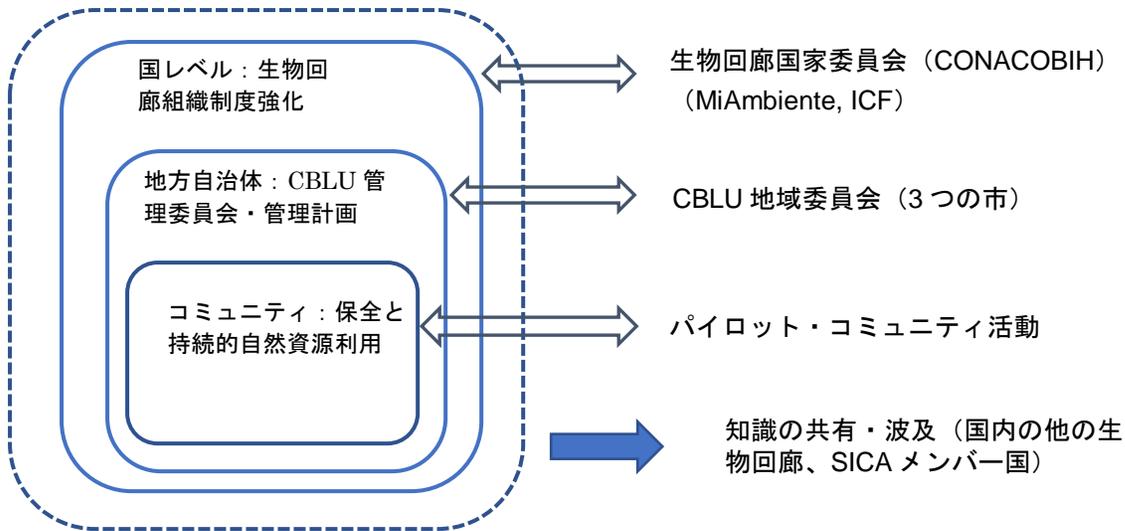
グラナシーヤ村の採水地



水源林境界標識

ラ・ウニオン生物回廊プロジェクト Proyecto CBLU

ホンジュラスの生物多様性保全と持続可能な開発支援のため、JICAの技術協力プロジェクトとして、ラ・ウニオン生物回廊プロジェクトが開始された。プロジェクトでは、生物回廊計画・管理に関連した、国、地方自治体、コミュニティの3つのレベルへの協力と、それらを含めた知識の共有の4つの目的を設定している。



国・地方自治体・コミュニティの各レベルにおけるプロジェクト活動

ラ・ウニオン生物回廊プロジェクト (2016年1月11日～2021年1月10日 (5年間))

- プロジェクト目標：ラ・ウニオン生物回廊において「ホンジュラス生物回廊規則」に基づく生物回廊管理モデルが確立される。
(「生物回廊管理モデル」とは、関係機関による管理委員会の設置・運営、自然資源調査・社会経済調査に基づくゾーニング及びゾーンごとの管理計画の策定、バッファゾーンにおける環境保全型生産活動の特定及び支援、自然資源および社会経済状況のモニタリング、モニタリングを踏まえた計画修正のパッケージを指す。本プロジェクトではこれらの手順をまとめたガイドラインを作成し、公的承認を得ることを目指す。)
- 成果1：生物回廊のための国家レベルでの組織・制度が強化される。
- 成果2：ラ・ウニオン生物回廊のための組織・制度および管理計画が確立する。
(「管理計画」とは、ラ・ウニオン生物回廊の保全と地域開発の戦略、諸目標、ゾーニング、保護区内の規則、活動[生産活動管理、環境教育、PESなど]を含む。)
- 成果3：ラ・ウニオン生物回廊管理計画に基づき、選定されたパイロットコミュニティにおいて持続的利用・保全計画が策定され、奨励される。
(「持続的利用・保全」とは、水源地の森林保全による農地灌漑用水の安定的供給、土壌流出防止のため急斜面地の耕作制限とテラス型農地造成、森林維持と高品質豆生産のための日陰コーヒー栽培、地域主導エコツーリズム活動、SATOYAMA型景観の維持など、自然資源の保全に配慮した活動をその地域の自然環境および社会環境をふまえて適切な方法で行うことである。)
- 成果4：生物回廊管理に関する知識・経験がラ・ウニオン生物回廊内外で共有される。

プロジェクトの実施 Implementación de proyecto

プロジェクトは次の機関が参加・実施している。

- 環境省生物多様性局（DiBio (Dirección General de Biodiversidad)、MiAmbiente (Secretaría de Estado en los Despachos de Energía, Recursos Naturales, Ambiente y Minas))
- 林野庁（ICF (Instituto Nacional de Conservación y Desarrollo Forestar, Área Protegidas y Vida Silvestre))
- 農牧科学技術局（DICTA (Dirección de Ciencia y Tecnología Agropecuaria)、SAG (Secretaría de Agricultura y Ganadería))
- 生物回廊国家委員会（CONACOBH）
- CBLU 地域の3つの地方自治体
- JICA（国際協力事業団）

各成果目標に対して次のような活動を行っている（2018年6月以降は予定）。

1. 国家レベルの組織・制度強化：CONACOBH 準備会合、内規策定、研修会
2. ラ・ユニオン生物回廊の組織強化と管理計画策定：地域管理委員会設置・規則策定、ユスカラン生物保護地域境界見直し、CBLU 管理計画策定準備
3. コミュニティにおける持続的利用・保全計画策定：コミュニティ活動支援（次項参照）
4. 知識・経験の共有：国際会議、国内の関連会議への参加、発表

コミュニティ活動支援 Implementación de actividades comunitarias para uso sostenible y conservación

プロジェクトではコミュニティの環境保全として、水質汚濁対策（トイレ・水回り整備）、ゴミ処理、湖沼・取水口保全、水源林の指定、支援を行ってきた。植林はコミュニティからの要望も多く、森林回復地の地図化、苗畑整備などを支援している。生計向上として、栽培作物の多様化、研修用共同圃場整備、そしていくつかのコミュニティに対してはアボガド（ハス品種）の導入支援を行っている。これら活動項目の作成と計画は参加型開発の手法に基づきコミュニティ自身で行っている。





ラ・ウニオン生物回廊プロジェクト

プロジェクト情報

Web（スペイン語）：

<https://www.jica.go.jp/project/spanish/honduras/004/index.html>

Web（日本語）：

<http://www.jica.go.jp/project/honduras/004/index.html>

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1400414/index.html>

Dirección General de Biodiversidad (DiBio), Mi Ambiente
Colonial Ruben Darío, Calle Circuite Choluteca, Casa No.23,
Tegucigalpa, Honduras

Tel: 2235-9302

Correo: dibio@miambiente.gob.hn

Web: <http://chmhonduras.org/>

JICA Honduras

Colonial Lamasdey Mayob, Calle Santa Rosa, #1346

Tegucigalpa, Honduras

Web: <https://www.jica.go.jp/honduras/espanol/index.htm>

2018年5月